



# 校長室だより

第4号 平成25年12月6日発行

大隅東小学校長 豊田 雅弘

<http://swa.city-osaka.ed.jp/weblog/data/e651424>

## 「人権週間」～人権について考えよう～

今年の12月4日から10日までの1週間を、第65回人権週間と定められています。「人権」と一口に言っても、いろいろなものがあります。今年の重点目標は

「みんなで築こう 人権の世紀 ～考えよう相手の気持ち 育てよう 思いやりの心～」のもとに、「女性・子どもの人権を守ろう」「高齢者を大切にする心を育てよう」「障がいのある人の自立と社会参加を進めよう」「同和問題に関する偏見や差別をなくそう」「アイヌの人々に対する理解を深めよう」「外国人の人権を尊重しよう」「HIV感染者やハンセン病患者等に対する偏見をなくそう」「刑を終えて出所した人に対する偏見をなくそう」「犯罪被害者とその家族の人権に配慮しよう」「インターネットを悪用した人権侵害をなくそう」「北朝鮮当局による人権侵害問題に対する認識を深めよう」「ホームレスに対する偏見をなくそう」「性的指向を理由とする差別をなくそう」「性同一性障がいを理由とする差別をなくそう」「人身取引をなくそう」「東日本大震災に起因する人権問題に取り組もう」が掲げられています。要するに、「人権」とは、互いの違いや良さを認め合い、誰もが生まれながらにもっている（人として大切にされることを侵されることなく、平和で安心して生きていくことができる）権利です。

## 互いが互いの人権を守ることで

互いに思いやる心は、「自尊感情」を育てることにつながります。みんなから大切にされているという気持ちは、自分をも大切にすることになっていきます。子どもたちを見ていると、自尊感情の低さが気になります。自尊感情を育むとは、①自己存在感（自分は人から認められている） ②自己有能感（自分にはものごとを最後までやり遂げる力がある） ③自己有用感（自分は役に立っている） ④自己肯定感（自分にはよいところがある）ということに支えられています。

現代社会において、自尊感情が十分に育たず、うまく生きていけない若者の増加がみられます。自己中心的で自分さえよければ良いというのであれば、協調社会（安心して生活できる社会）は築けません。それどころか、みんながバラバラに生きていく、ひいては道徳心やモラル（規範意識）の低い、犯罪多発社会へと陥ってしまう危険を孕んでいます。決してそんな社会にはなりません。

## 一人一人の名前の大切にすることが第1歩

人は、どんな時に自分が大切にされているなあと感じるのでしょうか。「ありがとう」「○○してくれてうれしいよ」「だいじょうぶ?」「がんばっているね」など、所謂ふわふわ言葉をかけられた時がその典型ですね。また、相手に自分の思いやりの心が届いた時だと思います。それが、自尊感情を育む自己存在感、自己有用感や自己肯定感にもつながります。

また、一人一人が一個人として認められていると実感するのは、自分の名前を呼ばれることでしょうか。「おい、そこ」「おまえなあ」などは一個人として認められていると感じるのでしょうか。名前は、付けてくれた人の思いや願いが詰まった、一個人を表す最も大切なものです。「○○」ではなく、「○○さん」と呼ぶのは、その人に対して敬意を表すことであり、人権教育の根幹だと私は考えています。我々、教師も気をつけていきたいですね。